令和７年度の学校評価結果と令和８年度の推進策について

学校評価は、教育活動や学校運営などの改善・充実を図り、より質の高い学校教育の実現をめざして行うものです。

今年度も本校では、生徒・保護者・地域を対象とした学校関係者評価アンケートを実施しました。また、校内でも、世田谷区教育振興基本計画及び学校経営方針に基づいた点検・評価を行い、これらの結果を学校関係者評価委員会に提出しました。

このたび受け取った学校関係者評価委員会からの報告書と本校の自己評価を踏まえ、「令和７年度の重点目標の成果と課題」・「令和８年度の学校経営推進策」について、お知らせします。

令和７年度の重点目標の成果と課題

（1）探究的な学びを各教科で取り入れ、主体的に学習に取り組む態度を育てる。

保護者アンケートでは、「この目標は、子どもに合った適切な目標だと思う。」の肯定的評価が 85.3％あったが、「私は主体的に学習に取り組んでいる。」と答えた生徒の割合は、70.1％にとどまっていた。保護者が期待している学習態度を、生徒一人ひとりが身に付けられるような学習指導に努めることが、学校の責務だと考える。この目標を達成するために、学校が取組項目としたことのうち、「タブレット端末を有効活用している。」と回答した教員の割合は、昨年度より 10％以上上昇した。一方で、「自己（生徒）の課題解決学習を取り入れている。」と答えた教員の割合は 10％以上下降した。探究的な学びは、これからますます必要とされる学び方であり、引き続き、探究的な学びの充実のための工夫と努力をしていく。

(2)これからの社会に必要な社会性を身に付け、さらに伸ばしていく。

３つの重点目標の中で、生徒、保護者共に肯定的回答の割合が最も高かったのが、この目標である。本校は、「あいさつ・時間・意思決定」をこれからの社会で必要な社会性と捉えているが、アンケートでは、このことを大切にして生活していると答えた生徒の割合が 82.4％、この目標は、子どもに合った適切な目標だと思うと回答した保護者の割合は、91.3％であった。あいさつと時間は不易の価値、自己の意思決定は、今後、ますます重要となっていくであろう価値だと考えている。いずれも、他者とのかかわりの場である学校だからこそ、より育つ能力であろう。教員の自己評価を見ると、「あいさつを関係づくりの第一歩としている。」が昨年度より 10％以上上昇し、「社会生活につながる『最適解』を考える習慣を作っている。」は他に比べて、肯定的回答の割合が高かった。

(3)自らの学習や生活を中・長期的な視点で見つめ、キャリア発達を促す。

この目標を達成するために、本校はキャリア・カウンセリングを大事にしている。ここで有効な手段（道具）となるのが、キャリア・パスポートである。毎月、生徒自身がキャリア・パスポートの見直し・修正をする時間を確保したり、三者面談で用いたりしている。昨年度、「私はキャリア・パスポートに書いた目標について、考えて行動している。」（生徒アンケート）に対する肯定的回答は、１年生が 83%であったのに対し、２・３年生はは 60%台にとどまってしまい、ばらつきが顕著だった。本年度は、３学年の回答状況が 77%～79%に収まっていて、全体で肯定的回答が 10%上昇した。(78.3%)教員の自己評価も、「キャリア・パスポートを効果的に使っている。」という肯定的回答が、70%→79%→85%→93%（R7）と年々増えており、安定的な活用になっていると考えられる。しかし、保護者アンケート「キャリア・パスポートを見て、子どもの目標や考えがわかる。」の否定的回答が約３割あり、三者面談での使い方をさらに工夫したり、長期休業中に家に持ち帰ることで、家庭内の話材とすることを勧めたりするなどの必要性を感じている。

令和８年度学校経営推進策

1　生徒が主体となる授業実践を増やしていく。

生徒が自身の学習課題を見出し、学習を通じて何ができるようになるのかを把握して学ぶことは、学びの充実の第一歩になる。探究的な学びの始まりはここにあり、自己の課題解決につながった時に、生徒は充足感を感じるものである。学校関係者評価報告書の提言にある「『生徒の主体的な学びを支え、学びの自立を図る』をさらに意識した、日常の教育活動の充実を期待する。」を受け、各教科はもとより、特に総合的な学習の時間では、探究的な学びを一層推進し、自力解決と協働解決の双方を採り入れて主体的な学びの実現を図る。

2　放課後の活動時間を短縮する。

働き方改革の着実な推進の観点から、生徒会活動・部活動をはじめとした放課後の活動時間を３０分短縮し、１７時３０分までとし、最終下校時刻を１７時４０分とする。放課後に生徒が活動している時間は、教員が勤務している状態にあり、生徒の在校時間の縮減は必要な状況である。ただし、例外を設け、公式の大会・コンクール・発表会並びに大きな行事前で活動が必要と判断した場合は、1カ月前から、活動終了を１８時、最終下校時刻を１８時１０分とすることができるものとする。

3　定期考査中は４時間授業を実施する。

年間４回の定期考査は、生徒が目標をもって学習する重要な機会として、これまでの規模を継続するが、不足しがちな授業時数を確保するため、考査日程のすべての日の１時間目を学活に充てた午前授業とする。

4　生徒を中心に据えた学校生活を実現する。

本校の教育目標の１つである「自律」に関わる設問として、学校関係者評価の生徒アンケートには、「私は、学校での過ごし方（ルールやマナー）について考えて生活している」という設問がある。この設問の肯定的回答は約 90%の高率であった。この項目は、生徒が安心して自分らしく生きていける学校生活を保障していく上で、とても重要であり、今年度に引き続き、生徒と教員が一緒に学校の過ごし方を考えていく。生徒に対しては、意見を表明する大切さと「みんなで決めたことはみんなが守る」ことの大切さを両立させて指導する。

5　地域ボランティアの参加促進に取り組む。

学校関係者評価の生徒アンケートでは、「学び舎の小学校や保育園と関わる機会があった」「学校や地域でのボランティア活動に関わる機会があった」の両設問で、否定的な回答が多かった。このことから、年度当初に地域で予定されているボランティア活動の一覧を教室に掲示し、参加を奨励するなど、生徒が見通しをもてる工夫をしていく。また、学活の時間で地域貢献のあり方について考えたり、ボランティア活動を実施したりすることを学年単位で検討していく。

6　学習と生活の両面でのカウンセリング機能を高める。

学校関係者評価報告書の提言には、「『自らの学習や生活を中・長期的な視点で見つめ、キャリア発達を促す』をさらに意識した、日常の教育活動の充実を期待する。」というものもある。学習面では「計画的に粘り強く取り組める」ことが大事であり、学校生活でのさまざまな経験を保護者とともに価値づけていくことも大事である。三者面談でのキャリア・パスポートの有効活用と教科学習での学び方のアドバイスを充実させていく。

7　地域運営学校の新たな体制づくりに取り組む。

本区では、令和８年度より、これまでの学校運営委員会が学校運営協議会という名称に変わり、「地域のコミュニティづくりに貢献できる学校」という観点から議論を開始することとなった。杜の学び舎を基本単位として、「家庭と学校で身に付けてきたことがらを地域でも発揮できる世田谷中生」をめざし、具体的な活動について協議していく。